

平成26年度支部行事

| 月 | 日 | 内容 |
|------|-------|--|
| 26.4 | 17 | 第1回役員会 |
| 5 | 22 | 第1回幹事会 |
| 6 | 28 | 第51回化学関連支部合同九州大会 |
| | 28 | 化学工学会九州支部学生賞審査会 |
| 7 | 25,26 | 第25回九州地区若手ケミカルエンジニアリング討論会 |
| 8 | | 第45回化学工学の基礎講習会(7/30-8/1, 8/6-8, 8/20-22) |
| 9 | 17-19 | 化学工学会第46回秋季大会 |
| 10 | 3 | 第2回役員会 |
| | 31 | 第2回幹事会 |
| 11 | | 化学工学の基礎出前講習会(10/14, 28, 11/4, 5, 17, 12/1) |
| 27.1 | 23 | 第17回企業と大学・高専の人材育成懇談会 |
| | 23 | 第3回役員会 |
| 2 | 23 | 第3回幹事会・企画会議 |

第 51 回化学関連支部合同九州大会 報告

平成 26 年 6 月 28 日、北九州国際会議場において、第 51 回化学関連支部合同九州大会が行われました。特別講演 1 件、一般ポスター発表 700 件、外国人研究者交流国際シンポジウム 23 件（うち化学工学分野から、一般ポスター発表 70 件の発表）が行われ、大変盛況のうちに終わりました。化学工学会九州支部では、38 件のポスター賞応募発表に対し 27 人の審査員で化学工学分野の審査を行い、下記の優秀発表者 7 人をポスター賞として表彰いたしました。これらの発表者には、懇親会において草壁克己支部長より賞状と副賞（3000 円分の図書カード）が手渡されました。ここに受賞者の栄誉を称えますと共に、ポスター賞審査にご協力頂きました審査委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

ポスター賞受賞者（演題順）

大野恭平（北九大）「ハニカムフィルムを利用したマウス iPS 細胞培養」

濱田 洋（九工大）「変異導入した LEA ペプチドが目的タンパク質発現に与える影響」

木村一成（九工大）「相界面における溶媒集積層の蛍光イメージング」

山下彬宏（宮崎大）「薬品賦活法によるバイオマス廃棄物を原料とした高比表面積活性炭の製造」

斎藤諒太（鹿児島大）「脱窒細菌の固定化担体としてのマイクロカプセルのモノリス構造制御と脱窒能力評価」

松藤貴大（有明高専）「ホウ素除去材料開発のための分子設計指針の確立」

澁谷 誠（九州大）「グライコモノリスの開発および生体分子分離への応用」

審査委員氏名

審査委員長：岸田 昌浩（化学工学会九州支部企画幹事）

審査取りまとめ役：西浜章平（Q-NET 会長）

審査委員（24 名）（順不同）

上平正道、井嶋博之、山本剛、名嘉山祥也、星野友、水本博、河邊佳典、白木川奈菜、宮崎真佐也、池野慎也、山村方人、馬渡佳秀、上江洲一也、中澤浩二、西浜章平、大渡啓介、川喜田英孝、森貞真太郎、大島達也、大榮薫、甲斐敬美、吉田昌弘、武井孝行、大河平紀司

平成 26 年度化学工学会九州支部学生賞審査会報告

平成 26 年 6 月 28 日に北九州国際会議場において平成 26 年度九州支部学生賞審査会が行われました。本学生賞は、学生自身の能力を審査する観点から、研究の理解度やプレゼンテーション能力を特に重視して毎年審査が行われている支部企画です。本年は博士課程（博士後期課程）6 名，修士課程（博士前期課程）9 名が審査会において研究発表を行い、14 名の審査委員によって厳正に審査が行われました。その結果、受賞者は下記の通り、博士課程の部は 2 名、修士課程の部 3 名の方に決定しました。発表した学生諸君の研究への理解、発表能力も高いレベルのものが多く、今後のさらなる活躍が期待される審査会となりました。長時間にわたり教育的見地に立ち、厳正なる審査を担当して頂いた審査委員の皆様に、心より感謝申し上げます。

博士課程の部（発表順）

高原茉莉（九州大学）

「DNA と酵素の部位特異的複合化による新規バイオマス分解システムの構築」

上田祐生（佐賀大学）

「白金族金属の選択的回収を目的とした新規三脚状抽出試薬の開発」

修士課程の部（発表順）

小野章彦（九州大学）

「p53 プロモーターを用いた DNA ダメージ応答型細胞センサーの構築」

久保翔平（鹿児島大学）

「新規バナジウム系封着加工用鉛フリーガラスの開発」

原野泰平（北九州市立大学）

「廃蛍光粉からのレアアースの選択的浸出手法の開発」

審査委員氏名（順不同）

草壁克己、岸田昌浩、甲斐敬美、大渡啓介、大島達也、星野友三浦佳子、中澤浩二、山本剛、水本博、西浜章平、川喜田英孝、名嘉山祥也、井藤彰

H26 年度 第 25 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会報告

実施日： 平成 26 年 7 月 25 日～26 日

会場： ANA ホリデイ・インリゾート宮崎（宮崎県宮崎市青島 1 丁目 16 番 1 号）

参加者総数： 140 名（学生 104 名、教職員・一般 36 名）

担当校： 宮崎大学

実行委員長 大島 達也 宮崎大学工学部環境応用化学科

塩盛 弘一郎 宮崎大学工学部環境応用化学科

大柴 薫 宮崎大学工学部環境応用化学科

学生幹事 代表 佐々木 雄史 宮崎大学大学院農学工学総合研究科 大島研究室

庶務 稲田 飛鳥 宮崎大学大学院農学工学総合研究科 大島研究室

山下 彬宏 宮崎大学大学院農学工学総合研究科 大島研究室

討論会実施内容

会場制の合宿形式で行った。別紙1に示すプログラムに従い、第1日目は、スクール形式に机を並べて、学生企画、特別講演1、企業紹介を順に実施した。第2日目はポスター発表を実施したのち、特別講演2、総合討論を行って本会を閉会した。

学生企画 「グループワークを通じた学生間交流と化学工学学習」

大学をまたぎ6人程度のグループをつくり、「脱出ゲーム」のような趣向のゲームを行い、お互いにアイデアを出しながら次々と化学工学および英語の課題を解き進め、グループ間でゴールに向かい競争する企画を行った。この企画では学生間の協力が不可欠となるような状況を与え、学生間での活発な交流を促し、その後のポスターセッションではより踏み込んだ内容での討論ができるような環境を提供することを目的とした。なお、化学工学の出題内容は、化学工学会の認定資格である「化学工学技士(基礎)」の出題事例を参考に、英語課題は TOEIC 公式の出題例を基に作成した。

正解を導くと屋外へ次の問題を受け取りに行くように設定するなど、オリエンテーリングの要素も組み込んで課題を設定し、参加者が熱心に取り組む様子が見て取れた。しかしながら、制限時間内に全ての課題を解いてゴールまでたどり着けるチームが少なく、問題の難易度が高いという声が挙がった。

特別講演1 「効果的な質疑応答の対処法」 講師 川上 輪子 氏(リンクサイエンス)

川上 輪子氏による特別講演を実施した。内容は英語を母国語としない発表者を対象として米国の大学で実際に取り入れられている訓練方式をもとに質疑応答の対処方法を講義で学んだ後、実践問題を解いて効果的なプレゼンテーションのコツが身につけられるようワークショップ形式の講演を行った。

この講演は今後国際学会にて口頭発表する学生等の参考となることを目指した企画である。国際

学会の発表において質問へ適切に応答するための方法についてレクチャーされるなど具体的な内容が多く、学生・先生の双方から好評価を得た。

企業紹介

企業紹介は富士シリシア化学株式会社、千住金属工業株式会社、株式会社ロキテクノ、株式会社クラレの4社が各30分の持ち時間で会社の概要、製品開発の取り組み、学生へのメッセージなどの内容を含む発表を行った。

学生がそれほど耳にすることのないB to Bの会社に多数参加いただいたため、就職活動の参考になったという意見があった。一方話を聞いていない学生も若干名おり、反省点が残った。スクール形式で全員に対して一斉に発表する形式だったため質問がでにくかったことから、いくつかのグループに分かれ、質疑を行いやすい環境を整えるべきだったと思われる。

その後、立食形式にて親睦会を行った。企業参加者にも参加いただき、企業と学生・教員の交流がさらに深まる様子が見えかけた。

ポスター発表

7月26日9:00からポスターセッションを実施した(奇数番60分+偶数番60分)。また、企業参加者についてもそれぞれポスター展示を行っていただいた。学生ポスター発表の審査対象は100件であった。参加者全員が審査員となり、教員票は学生票の3倍の得点として投票によりポスター審査を実施し、上位15名をポスター賞受賞者として選出した。閉会式にポスター賞授賞式を行い、賞状と副賞(図書券3,000円)を授与した。

特別講演2「化学工学会九州支部長 特別講演」講師 草壁 克己 氏

本会は第25回の大会であることから、特別講演として九州支部長 草壁 克己氏に約40分のご発表を頂いた。学生や若手教員がどのようなことを考えて日常を過ごすべきかというメッセージを様々なご経験を基に発表いただいた。アンケートでも「もっと話を聞きたかった」等のコメントがあり好評であった。支部と本会の連携を密にするという意味でも、初めての支部長参加の意義は大きかったように思われる。

その後、ポスター賞授賞式、総合討論、会計報告、アンケート調査を行ってから、本会を閉会し、集合写真を撮影して解散とした。次回第26回大会は佐賀大学 川喜田英孝准教授を世話人として開催される予定である。

第25回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 プログラム

【第1日目 平成26年7月25日(金)】

- 12:00~13:00 参加受付
- 13:00~14:45 学生企画
「グループワークを通じた学生間交流と化学工学学習」
- 15:00~16:15 特別講演
「効果的な質疑応答の対処法」
講師 川上 輪子 氏 (リンクサイエンス)
- 16:15~18:15 企業紹介
・富士シリシア化学 株式会社
・千住金属工業 株式会社
・株式会社 ロキテクノ
・株式会社 クラレ
- 19:00~21:00 親睦会

【第2日目 平成26年7月26日(土)】

- 9:00~11:10 ポスター発表
*学生ポスター発表と企業ポスターセッションは同時開催いたします。
学生の発表は前半・後半に分け1時間ずつの発表となります。
- 11:10~11:40 化学工学会九州支部長 特別講演
講師 草壁 克己 氏 (崇城大学 教授)
- 11:40~12:00 総合討論・表彰式・閉会式

第25回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞受賞者

| No. | 氏名 | 所属 | 演題 |
|-----|--------|---------|--|
| 10 | 高瀬 大樹 | 北九州市立大学 | Co と Ni の向流多段抽出分離 |
| 19 | 澁谷 誠 | 九州大学 | 糖含有モノリスの開発および生体分子分離への応用 |
| 22 | 崔 シン楠 | 九州大学 | Inhibition of bacterial adhesion and protein adsorption on hydroxyapatite surface by using PEG-phosmer copolymer |
| 27 | 出口 奈緒 | 九州大学 | Solid-in-Oil 化技術を用いたヒアルロン酸の経皮デリバリー |
| 28 | 末廣 あゆみ | 九州大学 | 翻訳後修飾酵素を用いた超分子ハイドロゲルの創製とその応用 |
| 33 | 秋山 亮輔 | 九州大学 | シリカ被覆による担持 Pt 触媒の耐久性向上 |
| 34 | 松藤 貴大 | 有明高専 | ホウ素除去材料開発のための分子設計指針の確立 |
| 37 | 平山 茜 | 有明高専 | 加圧熱水によるリグニン由来化合物の回収 |
| 38 | 高岡 祐士 | 佐賀大学 | 支持膜上に形成させたコロイド積層構造の特性評価 |
| 54 | 安本 昇平 | 熊本大学 | 超臨界二酸化炭素および向流接触法を用いた柑橘残渣の有価物分画 |
| 56 | 内門 真之介 | 熊本大学 | マイクロ波照射を用いたグリセリンの GTBE への迅速簡易変換 |
| 62 | 佐々木 雄史 | 宮崎大学 | 新規アミノリン酸系抽出剤の合成とインジウムおよびガリウムの選択的分離 |
| 65 | 徳丸 恵 | 宮崎大学 | チオール系抽出剤による廃電子機器からのインジウム、ガリウムおよび亜鉛の高選択的抽出に関する研究 |
| 68 | 日高 葉 | 宮崎大学 | キトサンを利用した Sb, As, Se の除去材の開発と工業的応用 |
| 88 | 田中 啓寛 | 鹿児島大学 | 流動触媒層反応器での流動性悪化時におけるウェーブレット変換を用いた圧力信号の解析 |

平成26年度「第45回化学工学の基礎講習会」報告

【開催日】 7月30日～8月22日（全9回）

【会場】 九州大学西新プラザ 中会議室（8月1日のみ大会議室）
福岡市早良区西新2-16-23

【受講者】

全部受講 10件、 部分受講 45件、 1テーマ受講 10件
延べ受講申込数 230名
延べ出席者数 210名

| | | 申込 / 出席 |
|-------------|------------|---------|
| 1. 化学工学基礎 | 〔7月30日（水）〕 | 27 / 27 |
| 2. 流動 | 〔7月31日（木）〕 | 28 / 27 |
| 3. 伝熱 | 〔8月1日（金）〕 | 32 / 31 |
| 4. 反応工学（1） | 〔8月6日（水）〕 | 26 / 24 |
| 5. 反応工学（2） | 〔8月7日（木）〕 | 25 / 23 |
| 6. 吸着・イオン交換 | 〔8月8日（金）〕 | 22 / 19 |
| 7. プロセス制御 | 〔8月20日（水）〕 | 25 / 20 |
| 8. 調湿・乾燥 | 〔8月21日（木）〕 | 22 / 19 |
| 9. 晶析 | 〔8月22日（金）〕 | 23 / 20 |

第 46 回化学工学会秋季大会報告

9 月 17 日（水）から 19 日（金）までの 3 日間、九州大学伊都キャンパスにおいて第 46 回秋季大会が開催された。今回は、各部会のご協力により、シンポジウム 45 テーマにおいて 999 件の講演発表が行われた。口頭発表用の会場（A～Y の 25 会場）は全てセンター 2 号館に集約し、ポスター発表用の会場（ZA～ZD, ZF）としては、I2CNER の 1 階大ホールとロビーを使用して、非常にコンパクトな会場を実現することが出来た。

福岡市で開催するのは 2006 年に福岡大学で第 36 回秋季大会を開催して以来 8 年ぶりであった。前回は大会 2 日目に台風の直撃を受けて、午後の講演、特別講演および懇親会を中止にしたという苦い思い出があったが、今回は天候にも恵まれ、大会参加者 1654 名および懇親会有料参加者 386 名を得ることができ、無事に大会を終えることができた。

大会の準備は、ほぼ 2 年前の 2012 年 11 月の会場候補地の検討から始まった。会場については福岡・熊本の各大学を候補地として、会場数・運営組織・立地条件を総合的に判断し、九州大学伊都キャンパスを第一候補とした。開催時期については他学協会の開催行事を考慮の上、9 月 17 日から 19 日とし、2013 年 1 月に会場の仮予約を行った。

秋季大会は部会より提案されたシンポジウムの集合体である。そのため、会場と日程を決めた後は「シンポジウムの募集」を実行委員会がする必要がある。化学工学会事務局より各部会の部会長並びに部会事務局（庶務）等の電子メールアドレス一覧をいただき、2013 年 12 月 12 日にシンポジウム募集メールを送信した。送信先としては、前回大会からの引き継ぎ事項として部会長のみへのシンポジウム募集依頼では不都合が生じたとのことであったことから、今回は各部会（部会長、部会事務局）、部会 CT および地域 CT（CT 長、副 CT 長）、各センター（センター長、副センター長）、各種委員会（委員長、副委員長）、大会本部運営委員と幅広く募集依頼をかけることとした。結果、シンポジウム募集に関する大きな連絡不備は生じなかったと考えている。なお、今回は実行委員にてシンポジウム募集とその取りまとめを行ったが、これらは本部事務局が行った方が作業がスムーズに進むのではという反省はあった。

2014 年 1 月 31 日に設定していたシンポジウムの応募締切にはほとんどの回答が集まり、翌週には回答保留となっていた部会からも無事回答いただいた。いろいろと個別に対応しながら最終的には 45 件のシンポジウム申請をいただいた。これをとりまとめて「化学工学」誌 4 月号の会告に「講演募集」を掲載した。また、4 月 1 日に第 46 回秋季大会のホームページを公開した。

本大会においても、講演申込受付には京都大学の河瀬元明先生が開発された大会支援ソフトウェア（EASP）を使用させて頂いた。EASP はコンピュータのリテラシーがない担当者でも、大会プログラム作成作業を容易に行うことができる優れたソフトウェアであり、開発者の河瀬先生に敬意を表したい。講演申込期間の時期は、前回の第 45 回秋季大会と同様に、2014 年 4 月 21 日（月）～5 月 12 日（月）とした。申込総件数は合計 1021 件であり、前回

秋季大会（1021 件）と同数だった。その後の講演キャンセル件数（2 重登録も含む）については 22 件で、こちらも昨年度の 23 件と同等だったことで、最終講演件数は前回大会（998 件）とほぼ同数の 999 件となった。前回の大会から、講演申込みを以前より約二週間遅らせていることで、申込件数が増加していることから、次大会以降も本申込期間の踏襲をお勧めしたい。

講演募集を締め切り、5 月 20 日に各シンポジウムのオーガナイザーに対して、プログラムの作成および座長候補者の選定をメールで依頼した。オーガナイザーから期限内にメールの返信がない場合には、HP から電話番号を調べて、電話をかけたつもりもした。その場合、知り合いの先生がオーガナイザーにいる場合はその方に電話して、誰に電話をかければよいか、といった真のオーガナイザーを探す作業から行う必要があった。また、プログラム作成依頼と同時に、招待講演者（＝本部大会運営規則」第 12 条に基づいて、参加登録費および懇親会費が免除される講演者。各シンポジウム 2 名以内）の募集を行った。募集および申請の受理に関しては、全く問題は生じなかった。一方で、招待講演の演題登録をオーガナイザーが代行した場合に、まずはプログラム作成のための仮登録として仮題で登録するオーガナイザーが多く、それが後々まで仮題のままになっていることを忘れ、講演要旨集作成および USB データ作成の際に気が付いて、締め切りギリギリの修正をこちらから依頼するといった事態になった。実行委員の担当者は、講演申込み内容を随時チェックしていくと良いと思う。また、その際に、文字化け等もチェックし、可能な限り修正していくと後々の作業が楽になる。一方で、講演申込み者の皆様にも、講演申込みフォームでの説明に従った正確な入力（英語入力欄に全角文字を入れない等）をお願いしたい。

各シンポジウムのプログラム案がすべて出揃った後に、実行委員会にて全体のプログラムを作成した。具体的な作業は、①EASP によるプログラムの衝突チェック（6 月 19 日）と②衝突した座長および講演の調整に関するオーガナイザーへの代替案の提案と確認依頼（6 月 20 日）、および③変更後のプログラムの EASP による衝突再チェックおよびオーガナイザーへの再確認依頼（6 月 22 日）である。その作業後に確定したプログラムを基にして、座長依頼メールを送信した（7 月 2 日）。座長依頼メールは、300 通近く出さなければならないため、手作業で一通一通メールを作成するのは現実的でなく、他の実行委員にメール送信の為にプログラムを作成して頂いた。今後、EASP で座長依頼メールの送信までが可能になると、実行委員はすごく助かると思う。座長依頼を開始すると同時に、プログラムの暫定版（座長交渉中）をホームページにて公開した（7 月 3 日）。座長依頼の諾否の返答に関しても、その数の多さ故になかなか集まらなかったが、これも最終的には直接電話をかけるなどの方策で、すべての座長候補者から承諾を得ることができた（7 月 16 日）。

今回は講演要旨原稿の提出期間を 1 ヶ月近く遅くして、7 月 7 日（月）～7 月 28 日（月）とした。締切に間に合わなかった講演は 10 数件であったが、講演申込者への督促の結果、締切後 1 週間以内に、ほとんどの講演要旨原稿を提出して頂いた。一方、近年は CD-ROM 読み込み用のドライブが無い PC も多いことから、講演要旨集の作成費がアップすることを覚悟の上で、従来の CD-ROM を止めて、USB メモリ版の講演要旨集とした。最終的には約 100 万円の経費アップであったが、従来の CD-ROM よりも作成に長時間を要することが直前になって判明し、

8月4日(月)までに講演要旨集のマスター版を作成業者に渡す必要に迫られた。そのため、講演要旨原稿の提出締切後の余裕がほとんどなく、かろうじて間に合わせることができた。将来的には、USB メモリ版の講演要旨集も廃止することが考えられる。現状でも、事前参加申込を行った場合は、大会ホームページから講演要旨をダウンロードできるようになっている。現在は1件ずつしかダウンロードできないが、セッション単位あるいは全部を一括してダウンロードできるようにすれば良い。この場合、当日参加登録者に不便をお掛けする可能性があり、その対応を検討する必要がある。本大会では、参加者全員に九州大学の無線インターネットアクセスサービス(一時使用:学外者用)を利用できるようにしたので、会場内で講演要旨のダウンロードは可能であったし、近年のWiFiの普及を考えると、そこまで気にしなくても良いことかもしれない。

一方、参加募集については、2つの事前参加登録期間(期間①と期間②)を設定した。期間①は7月7日(月)～8月8日(金)とし、例年通りに大会参加費と懇親会費が当日参加登録費より一律2000円安くなる期間である。期間②は8月12日(火)～8月25日(月)とし、懇親会費のみ1000円安くなる期間である。期間②を設定した理由は、当日参加登録者の受付業務の煩雑さを少しでも解消するためと、懇親会参加者を増やすためであった。実際のところ、期間①での大会参加予約1125名と懇親会参加予約294名に対して、期間②での大会参加予約103名と懇親会参加予約24名であった。今回は、期間②での申込者に対しても参加証を事前送付するために期限を8月25日(月)までとしたが、参加証を大会当日に受付で手渡すことにすれば、大会一週間前くらいまで期限を延ばすことも十分可能と考えられ、当日参加登録者の受付業務の煩雑さを大幅に減らすことが期待できる。その分、期間②の事前予約者の受付業務が面倒になるが、事前予約時の受付番号に対応して受付窓口を準備すれば大きな混乱なく対応できると思われる。そうすると、期間①の事前予約者に対しても参加証を事前に送付する必然性がないように思われる。例えば、Webで事前参加登録を行ったときに、受付番号付きの事前参加登録確認画面をプリントアウトしてもらおう。あるいは、事前参加登録確認書をメールで送信するような事前参加登録システムを準備できれば、大会当日に確認書を持参してもらおうことで済むはずであり、参加証の郵送の手間と費用を軽減できる。この点については本部大会運営委員会で検討して頂きたい。

会場準備と運営についての具体的な行動は6月20日に実施した現地打ち合わせにはじまった。講演会場の視察、保育サービスや食堂の確認を行った。この時、会場1階に講義室が2部屋増設されていることが判明し、アクセスの良さからこれらの部屋を受付・本部およびクロークとすることとした。6月19日のプログラム編成会議の結果を踏まえて6月29日までにシンポジウムプログラムおよび会場配置を確定した。7月31日までに諸会合の会場割当が決まったことから、8月6日に第二回会場視察、9月8日に最終会場視察を行い、AV機器の動作確認ならびに各種掲示物についての最終確認を行った。一方、必要な大会備品リストは8月26日に確定し、大会1週間前に九州大学に送付いただいた。大会前日の9月16日午後からこれら大会備品および別途調達・準備した掲示板や掲示物などを会場に運搬し、運営マニュアル説明ならびに各会場設営を行った。会場がまとまっていたこともあり、運搬および設営は容易であった。大会初日午前中は事前予約受付デスクを部屋の外に設置することで受付の

混雑を回避できた。また、会場および AV 設備共に新しく、動作上の問題も生じなかった。しかしながら、大会場ではマイクが不可欠であるにもかかわらず、各会場備え付けのマイクは 2 本のみであった。予備で保管されている有線マイクが 6 本あったころから、それらを全て借り受けたが、全ての大会場に配置することはできず、いくつかのシンポジウムにはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げる。

さて、ポスター会場は口頭発表用の会場から九大ゲートブリッジ（2014 年 3 月に完成）を渡った I²CNER の 1 階を利用した。大ホールを 2 つにわけて、1 日目のセッション（ZA：91 件，ZB：22 件），2 日目のセッション（ZC：73 件，ZD：46 件）を行い、さらにロビーでの ZF セッション（22 件）を追加した。どのポスターセッションも盛況であり、参加者が多かったことから、大ホールでもやや狭かったようにも感じた。大ホールでの大会前日の会場準備、1 日目午前のポスターボード搬入、1 日目と 2 日目の発表当日、3 日目午前の撤収はすべて問題なく終わった。ただし、ロビーで開催した ZF セッションは新たに本部で企画されたセッションであり、形態が通常のポスター発表とは異なること、さらに 懇親会を 1 日目の夜に同じ会場で行いたいとのオーガナイザーの希望もあり、この運営に関しては混乱があった。大ホールでのポスターセッションでも発表後に懇親会を同会場で行いたいとの希望があったが、ポスター会場での飲食は禁止されており、これについては生協食堂での開催に変更していただいた。

会場設営から運営および撤収までの 4 日間で、のべ 182 人の学生アルバイトを動員した。会期中は天候に恵まれ、また、オーガナイザー、会場責任者ならびに学生アルバイトの尽力により、期間中これといったトラブルもなく運営できた。関係の皆様にご心から御礼申し上げます。

今回はじめて秋季大会の特別講演を取りやめたため、懇親会の移動は 2 日目の学会終了後となった。また、九大伊都キャンパスからの移動時間を考慮して、懇親会の開始時間を 1 時間繰り下げ、19 時からの開始とした。懇親会の場所は、皆様の利便性を考慮し、博多駅に近いホテル日航福岡に決めた。参加者数は、最近では一番多い、400 名超となった。

懇親会に先立ち、名誉会員の推戴式と前会長の就任挨拶を行ったため、他のスピーチを意識的になくした。このため、参加の皆様を長らくお待たせすることはなかったと思う。懇親会は、草壁九州支部長の乾杯のご発声で、祝宴となった。

皆様、博多での懇親会ということで、期待も大きく、準備する身としては、少なからずプレッシャーを感じた。特に、日航ホテル自慢の「河床」のにぎり寿司は、皆様に食べて頂くために、400 皿を用意致したが、あっという間に無くなり、大変好評であった。また、ホテル自慢のカツサンドも人気の長い行列ができた。飲み放題のビールとワインの他、九州の焼酎を 4 升用意したが、あっという間になくなった。参加の皆様には、概ねご満足頂けたようで、ほっとしている。

終宴前には、次期年会の幹事校から吉見先生に年会をご紹介いただき、中締めとなった。多くの方々はその後、それぞれのグループで博多の夜へ繰り出されたようである。

上記では、実行委員会の主な作業を中心に顛末を記した。この他、「保育サービス」や「各種会合・委員会」のための部屋の確保も必要であった。保育サービスについては、今回も 3

名の利用者がいて、今後も継続的な利用が見込まれる。各種会合・委員会については、化学工学会事務局の方で取り纏めて頂き、実行委員会としては、昼食時のお弁当の手配だけを行った。

大会開催前、「九州大学伊都キャンパスは遠くて不便である」と思われていたので、大会期間中の伊都キャンパスまでのアクセス状況が心配であった。皆様には、市営地下鉄に乗り入れている JR 筑肥線と昭和バスの利用をお勧めし、昭和バスには増便をお願いしていた。昭和バスからは九大学研都市駅と伊都キャンパスの両方に担当者を派遣して頂き、混雑の状況に応じて臨時バスを手配して頂いたおかげか、多くの方から「思っていたほど遠くない」とのお言葉を頂いた。その反面、西鉄バスを利用された方からは「50分立ち通しで大変だった」との苦言を呈されたが、通学で西鉄バスを利用している九大生にとっては当たり前のことであり、ご容赦願いたい。

今回も、事前参加登録と当日参加登録の受付業務は JTB コーポレートセールスの皆様にご担当頂いた。おかげさまで、参加費等の徴収という煩雑な「お金の管理」を一切心配しないで、実行委員会としては講演プログラムの作成と当日の会場の運営だけに専念できた。次の年会からは業務委託先が変わるとのことであるが、長年にわたり受付業務をご担当頂いてきた JTB コーポレートセールスの皆様に感謝申し上げます。

最後に、あらためて多くの皆様のご協力により無事大会を開催できたことに感謝して、報告とする。

平成26年度「基礎延岡出前講習会」報告

【開催日】 平成26年10月14日、28日、

11月4日、5日、17日、

12月1日

(全8回)

【講義時間】 8:30 ~ 14:30 (昼休み 1時間含む)

【会場】 旭化成研修所 セミナープラザ青雲 (延岡)

【講師】

| | |
|-------------|-----------------|
| 1. 化学工学基礎 | 岩井芳夫 (九州大学) |
| 2. 調湿・乾燥 | 山村方人 (九州工業大学) |
| 3. ガス吸収 | 佐々木満 (熊本大学) |
| 4. 粉粒体操作 | 中里勉 (鹿児島大学) |
| 5. 吸着・イオン交換 | 上江洲一也 (北九州市立大学) |
| 6. 攪拌・混合 | 梶原稔尚 (九州大学) |

【受講者】 延べ受講申込数 91名

| | | 受講生 |
|-------------|----------|-----|
| 1. 化学工学基礎 | {10月14日} | 26名 |
| 2. 調湿・乾燥 | {10月28日} | 12名 |
| 3. ガス吸収 | {11月4日} | 10名 |
| 4. 粉粒体操作 | {11月5日} | 10名 |
| 5. 吸着・イオン交換 | {11月17日} | 8名 |
| 6. 攪拌・混合 | {12月1日} | 25名 |

第17回「企業と大学・高専の人材育成懇談会」

日 時： 平成27年1月23日（金） 午後1時15分

（受付開始：午後12時45分）

13：15～16：50 （JR博多シティ会議室）

- (1) 支部長挨拶
- (2) 参加企業と大学・高専の相談会

17：30～19：30 （ホテル クリオコート）

- (3) 懇親会

会 場： 懇談会； JR博多シティ会議室、(10F ABCD)

懇親会； ホテル クリオコート（4F バロック）

参加者： 47名

参加企業19社27名

参加大学8校14名

参加高専6校6名